アイヌの人々が川沿いに住んでいた意味を考え、 自然を活用していたアイヌの人々の生活が分かる授業

小学校 第4学年 単元名 「アイヌの人たちの生活と文化」

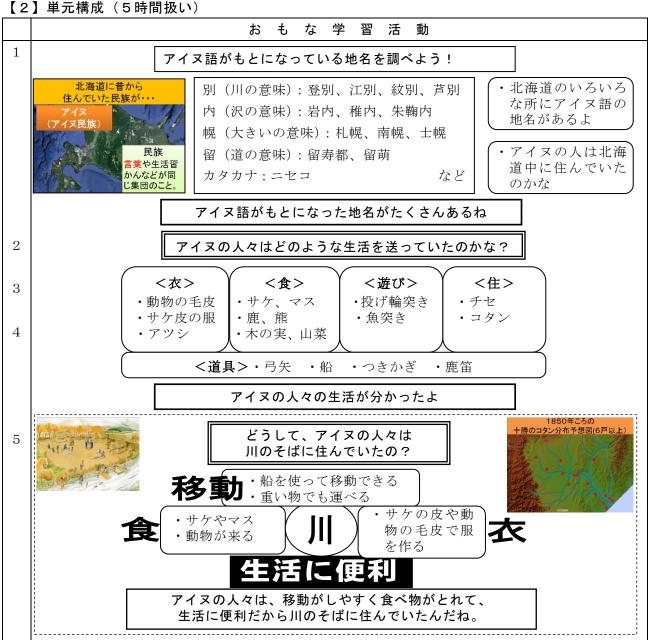
> 札幌市立信濃小学校 教諭 诱 山田

【1】単元のねらい

本単元では、北海道の先住民族であるアイヌの人々が自然を生かした生活を送っていたことにつ いて理解することがねらいである。そこで、北海道にはアイヌ語がもとになった地名が多いことか らアイヌの人々の暮らしに興味をもち、道具や衣服、食べ物、遊びなどについて追究していくよう な単元を構成する。

本時では、アイヌの人々が川沿いに住んでいた意味を考える。今まで学習した衣食や道具などと 結び付けることで、生活に便利な場所だったことに気付き自然を上手に活用していたアイヌの人々 の知恵に迫ることができるようにする。最後に 1855 年の十勝のアイヌ集落分布図を提示すること で、多くのコタンが川沿いにあった事実から自然を生かしたアイヌの人たちの生活を広い視野から 捉えられるようにする。

【2】単元構成(5時間扱い)



【3】本時の目標

アイヌの人々が川の近くに住んでいるという事実に問題意識をもち、衣食や移動の視点から考えることで、自然を生かして生活するのに便利な場所であることに気付くことができる。

【4】本時の展開(5/5)

おもな学習活動

アイヌの人々の衣・食・遊び・道具について調べ、アイヌの人たちが自然を大切にして生活していることを理解している。

アイヌの人々が多く住んでいた場所は? <コタンの絵:帯広百年記念館蔵>



- ・同じような家に住んでいるね。
- いろいろな所に住んでいると思うよ。
- 山の中なんじゃないかな。
- ・川の近くに住んでいるね。
- ・どうして、川の近く に住んでいるのか な。

どうして、アイヌの人々は 川のそばに住んでいたの?

住んでいたアイ

ヌの人々の知恵

に迫っていく。

衣

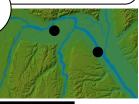
サケの皮や動物の毛皮で服を作る

食

- サケやマスなどの魚が獲れるなた数などを計算
- 水を飲みに動物 がやって来る

移動

- ・船を使って移動できる
- ・重い物でも運べ

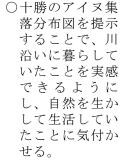


- 飲み水になるよ。
- ・川を上るサケをとって食べ物がたくさんあるんだよ。
- 船で漁ができるよ。
- サケは食料以外にも使われていたから、サケがとれる川の近くなんだ。
- ・自然の恵みを十分に 生活に生かしてい るね。

生活に便利

Ш

アイヌの人々は、移動がしやすく食べ物がとれて、 生活に便利だから川のそばに住んでいたんだね。





やっぱり川のそばに住んでいるね。

自然を上手に生かしているんだね。

便利な生活ができるように、自然を生かしていたんだね。

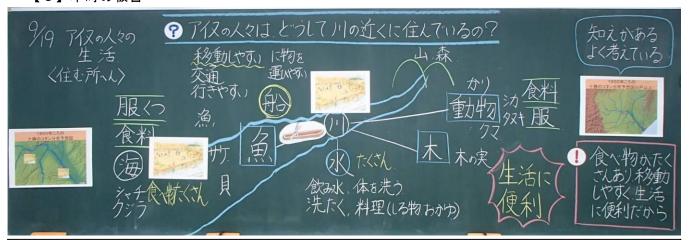
- やっぱり川のそばに 住んでいるね。
- ・近くのコタンにも川 を沿っていけるか ら行きやすいよ。
- ・自然を生かして暮ら しているところが すごいね。

【5】単元の導入の板書



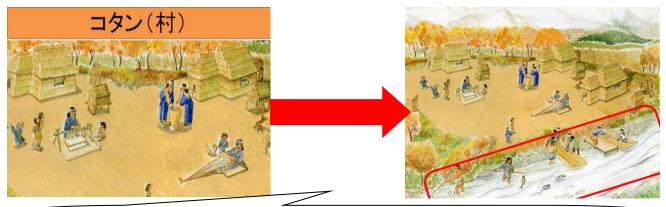
導入では、アイヌ語が基になった地名があることを伝え、アイヌ語の地名を地図帳で調べさせる。すると、子どもはアイヌの人々がたくさんの地名を付けていることに気付き、いろいろな所に住んでいたと考える。そこで、今から700年以上も前からアイヌの人々が北海道に住んでいたという事実を提示し、「そんな昔の北海道で、どのような生活をしていたのかな。」という単元を通した問いを生み、衣食住、遊び、道具などに焦点を当てて調べるように関わっていく。

【6】本時の板書

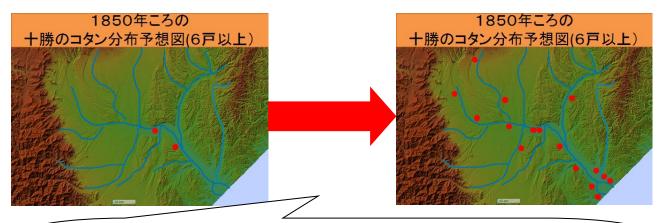


本時では、まず、アイヌの人々が多く住んでいた場所を予想させる。そして、川のそばにあるコタンの絵を提示し、問いを生む。子どもたちは既習を生かし、食料や衣服の原材料になる動物や魚が取りやすい場所であることや飲み水が確保できるなどとの子どもの意見を位置付ける。その際、板書を山・川・海の地形に見立てて構成し、船のイラストを準備することで、移動や運搬にもよい場所であることに気付かせる。最後に、十勝のコタン分布予想図を提示し、「やっぱり川沿いに多いんだ。」と一般化を図る。こうして、子どもはアイヌの人々は生活に便利な場所を選んで住んでいたことが分かり、アイヌの人々の知恵に迫ることができる。

【7】本時の中心資料

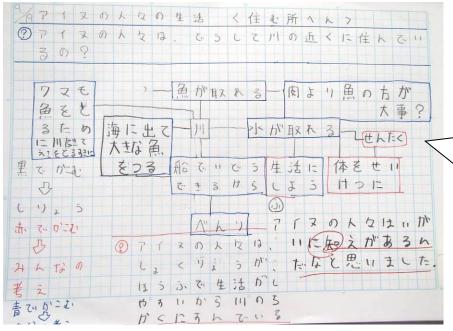


最初に、左の狭い範囲のコタンの絵を見せて、絵や既習をもとに、コタンがどのような場所に あるか予想させる。その後、右の絵を提示し、川沿いにあることに気付かせ、問いを生む。



アイヌの人々が川沿いに住んでいる理由について、食料を確保しやすく移動もしやすい便利な場所だと気付いた子どもたちに、「本当にそうなの?」と問い返す。「他のコタンも川沿いにあったんじゃないか。」と言う考えを引き出し、十勝のコタン分布予想図を提示することで、「やっぱり川沿いは便利な場所だったんだ。」「アイヌの人たちは自然を生かして生活していたんだね。」ということを理解させることができる。

【8】子どものノート



「川」という言葉をノートの中心にして、ウェビングでノートをまとめた。そうすることで、「動物や魚をとって食べていた。」「木の皮やサケの皮を服にしていた。」などといった既習とつなげて考えることができた。



※参考資料

- アイヌ民族:歴史と現在 (公益財団法人アイヌ民族 文化財団)
- ・アイヌのチャシとその世界 (北海道出版企画センター)
- ・コタンの絵 (帯広百年記念館蔵)